わ095
10
1

惠慶集

帝國圖書館藏

昭和一〇
帝圖

も=144

此集名有上下両人先年而
猶有集本也此異時草子不見
外題書之

恵慶

此集宗等依失随借出之云雖尋之
君宗等不見成尋又借求之所已
半分也仍可書加之者也

河原院にてあれたるやとに秋来と
いふ事を人々よむに
やへむくらしけれるやとのさひしきに
人こそ見えね秋はきにけり

とかぬ

あはもなくすゝきかれきしかるたの
人のいひさやくかはしかるを也

ある人の家にむめのやさきに
さしいつへいみしくちるをみて

あはれみよやともなき人ある梅花

屋きのせにくす今ぬものゝ
かくの院まてへんのよみつき
おほうふあんへえていふやう
あらしなる松の葉ちかく
いふむ人いほちいまるむ
こと乃たのこゝてこの人ぬきき
古ろあるか春かとふるよ
あわよふむ人のうへのはこすさい
むのしさ末らむ我ものなしな
あいしれらんの行つさ給て

くまヽくたたりてきとり
殿さらに親王にのうたに
家に行ふへ乃わらよりのよし
あきの月まは思いてなき
かいへ乃院よてき乃弱し
なるにいへとへこしよ
あちわれをやれまみまたかしの
そこよやらわし松の月のき
まてりしたるあまなの
こゝきいくまへ人まゐ
よそて

さはくゆく心ハうらくたなかりて
そのあふあふきの乃うわれそかゝ
こ川ゝゆきハつこきたの川めくら
うらそこ巻をわくゝ女にそえて
たにまきはらて乃こはさとこめおい
人こそあそれ出ハのこれり
くら乃とあき はぬるへし
いふへのちのこゑはまうつのうへ
あふゆわなき君のだまうき
とつゝ乃こともそらし
うへしらむかしの人のたまうき
ききそて見くたいのなきい

よしのふみ朝臣
月くさ乃あさのこれかたまやさに
いはしもさむきに竹のそよかは
かねしまうとてふみのうへくれり
たくまの子ふまあいかりとこふ哉よ
やこうとてふいはりあれとこしいと
てあいきうくし給と
うらやしきはれの君なりやきみよ
あ川のいけみあつくのみるよ
女王
あ川乃あいて見くらふいはゝの哉
こらくまゝれしとはなりけへし

六月三十日にはまそきする
川のくまみく
かたの坊乃ちとせやとものわたりと
あけふうなはなくかけれ
月のみなかにはをさみく
月のふなのあをこみ川へ人
こよひのわかれ年やちさまし
七月七日あふとこよひまろ合ん
ふうる川ふもにさてわ
かきみてみきはまたてる川岸
うつしれちらぬなさへ

みなわ乃川はきよきのなかり
よはうたはきみ乃心しだ村もし
かこゆやにはの松乃ちらを寛
なれ乃つ重乃ちへとはもらむ
植くこそらは重ちはなくすつく
川祢まさとは思ひそらし女
うつろふいきりあのし
縁まつくちはしなほとまつてちさ
こゝのうていはみにしあゆかん
さわいまのみちあへし
さそのちてあさましたみてら
あらはれてさはかのつゆるせと

なこしみそきする川いもせのこゝろ
乃木のはしこと葉
夜ふけてまつる己にてもえんさみ
月のかけのききまさりけるかく
秋ちかく雨
風しかくらたもなきにあはれし
あこしたくろきものさきまそち
春ちゆく人のこゝろ山手
小あしたくらくさへもわあふ
いふかたはてゝいろきこゆれとあふの
あかいたやりい秋ろうろくさき

冬たつまのそてさもくもり
立もれのふのま岑もみちらし
まつりたつひとつしらねは
十月廿日かのくそふの秋も暮
しら山のあらしとふてら
まて雨のやましきへあつ
ゆくしはるさきれ乃たいさき
くもりてまことくらく
たつたのもみちゆきさいのみゆき
山のもみちよふみそれよのきを
春ねめあらい河ゆき まの光

ちる乃安もる乃をしまむあかな
なきなら乃に〻あらし〻とあり
八序るいく
きつき乃川ら〻る乃山みゆき
月のたりわきよきかゝみてら
まくれねつき御る月ちつちね
いつ乃れまれく〻乃らさらもく
あるれ給いもちてあしたきみさい
乃こみ露さわいたまのらふの
えてれあれなるりとこみもの乃
まよみゆら文しくきくはすよ

川はてあわれなるし乃まなむ
ありはる乃たちよはくられ
ありは乃ふいとみとしるゆし
そうりのこれはふきゝくさまくあ
それらゆ乃きよさまゆりしね
乃あしまえは乃ゆゆさゆく
あ月乃露よたきのわれわれ
はすくても乃さらしきこれる
乃和歌のえしくとしふ
もへくも乃しわすれすゆふるい
の〻をさむわれなきゆき乃

いろめつきはなさいろいろのこと
きたの為にあはれなるかなき
にもしてなこしの山あきまし
うぃさあいけんふのともを
春はるいたすてましこえわして
みもまみてうしなれさらぬそい
ゆきうゆらんたり
炎川しきぬかいつちくく雪之
らたいえへの海やまうと女
雨きのこれ
よしきのままみてさていにま報子おし
ゆめきまここる我はしれいそ

をれしの春にくろれたえまていふつ
こさいこらふのねてはれまる
やともむしのあゆしこふち
にへの言ふあらんに
しらせきぬもまにみふ
のこ書ういかすきや
きぬいはりのたにまれちりわ
乃ことの春ものくなはらえみ
夢りとまとしもち夫ねへしあ
やきのいゆのたえまし雨ゆき
をふいてやまにゆきちのめへこそ花
のきぬ

さとたゝしことわりへきことのこゝろ
海そしのいむとうしていまた
この道みまよくあらさきみそろ
かつらかはそれはゆくかくにあふね
さなか日乃くれぬしのくあさいつる
あれくるやとまとらうのてはれと
ちらはのりさきかこゝにかさきしの
まいりくるあさてあふきけしくる
ねふまあはそまいのこゝきまて
しりしのあへみにぬしもうな
たむりしをこれはひさしくなにこ
乃まいりつ

ふかたゝこゝろちゝに浅乃なかに人
川まつるいふかはみゆきてうへ
いろうかちうきていみゆくあゝ
[illegible]
[illegible]
かきりのあまたの君
かしはりし[illegible]のまいりう
よ[illegible]たうきいつはりに[illegible]
遠川みなくこゝきみたしよ河
しるふなみつるたつは[illegible]
れふなもり川かうらのみ[illegible]
乃なかまし[illegible]
あふつぬえ[illegible]としふてくされ

いろふかくまゝ火し　あふくるゝ杦
そゝ代あゆむいちしても乃たも
かしにきなりゝく
ちゝふまゝ山乃さくら代にゝふ
ぶ代ゆ火かなかさ子のいぬらそゝ
いさやとわくゆきてたし女
ぬすさあかつそやに
うへさきしたりもいつもの心を
もりしめ火ゆらなりん
僧都乃法師　さくら
あわかく都のたつしかすむ
いろさくら代しものにもれ

きく乃さきみたこハわか
道とほ代ゆきてはみねにもくゝ
かわるやうくるゝいまわ
ぬなきやと
いしまわ川のふかみそこいさ女な
ハしそのふねやあふ女
むし
さくら　　もとあき
春
春のはなのさかりくしそよすくに
まきとこゆるゝ山のさくら代
わかきやと
いまいそのやまのはつる
あかつきやとをあめそし

吹 乃ま゛ゆめさし
めぐり乃しもいるゝはふりそへる
きこゝまやいみやいまし
乃まみ乃ゆまにあま我にて
しのすかきかうれ乃
かれとし
あふ時まれのいとおもひそれし
山乃さくこふるりまて
やこ乃郷しむしみへいるましを
すまりく火乃さこねとそころ
かれしてのたまやまとやせ

なまさりなれいせはくしにしゆた
かこてゆくる
せゆはいまいきとうまとおかすい
きみえたしくやあむとうれし
あし
あたさのいむせ乃ちきこまゆえれしかい
これさいそたにおきくれめや
むすまよわ乃かふすたこゝたい
きゝ乃なこまにあきてけいとも
ニつきめたるまとこふてあ
よそ人のふたいきみなさのみま
きくまのれつなかりけり

冬

かなしさは手向る山のみちならは
なかれてはしきりにくれて
川はゆきかふさみ日にてをねくさき
ふるとは川にはむすくへらふ
雲のあはれをふゆを
くれはこころちかくなりぬ
よしきえのれけはすまるかを
あらし野乃沖扉風乃うへみなわ
大川もせあり
いまの野のかはるいりのをちし
わいれはまはかはり川によきえみ

いま路はよくにまちくらわ
時もさやかにやまみなみあかまさに
うらくうみなるみれのもなはに
うれしねのれふ人ゆく
たちのる浅はたねきくへみ
さくいゆかいちつとのに
春みえきのつらにもこ花にみ
人あ
わかこころはまりきかくる
うきみかのの花のはわい
夜ねのはきみさきみなる人宿
古川さなもちみなにふちきは

ちたはさゝやふかのたきみちさき
ふ川もまみちはみたれて/ゆく
はちゝ紙はまゐこみ人はたゝなわむ
すまのうらはまんハすこしのなかれ
なにはのあしとおもふこく
衣のたもみなしの浦はかれぬらむ
ゝ川狩のつゐたゝたへぬ
もとこよしはあまのいさりすか
うら紙みゝぬる川のたゝなすこみにみ
ゝ川のこすゑハなのこそたちゝく
秋さの野よ萩こふ女あわ

これみ川そられちはのへまさかる妻
衣のましけの/おもてさく
たきはよいとたましもち
ころゝ/あゆ
大井のたいろのさゆしさゝ浪まかく
小しふまこゆをなきみたつかふ
ゆくぬ乃もつきにまとちみる/ゐあり
人みやめ乃思ふこしやはかなむ
こ井みはつみ秋の雨の花
さゝ乃まゝゐやしろ/ゐの
雨まなきしまうらにかわたる
こゝ乃ころたつまゝやしめてし

しのゝめのとこにゆきかゝりいはかり
侍そめしの比やつかなし
しみろのまみのゆきもこまぬは
きこえのちのつゝにこれは世すと
またいのよしあきとはよ人の
ゆくゝゝのあふ
まことにつきやつ乃はろかならぬあさ
れもむことらみ紫のちとらすも
ちのなるをさまらいしくらの
例の吹のいゝ花りききこさられ
いかにもかれてそのはりやる
春の花たてまつる杜のすゝら

さくらもちらぬなきさくしく
しる夢あらたちくしらあらは
ちくわしくりしきつ時つきゐに
まつふ夜乃わかまゝ夢乃らりたゝ
にきまゐつる名みにゆ大風乃さき
あきのきゝ乃はま月のたゝわすれ
乃はまほしみあかれくたれはゆれ
いもあしゆるふといもたちるふ
乃月林みはちらとわりかゑとの
中ちちわくまくりえるしらみ
きこえつのまもふれし夜のみ
あれはな世にりかうるあられ
世中いきつにろやしきますると

きよはふ乃うみにしくもすみわたる
いたゆゑにはたゝてやまぬくも
かはもと乃かはきかくにいはふ
月かけをみるみよりやわか乃あ
し
とは ふへみるもれきち乃
うれにしのにみたすみ
かきさと乃めしいけ乃きまゝ
こゝそてまりもあられんぬらぬを
なるふこれきさぬあさいふす乃
うれしきをやうしれみなも
ふたいとよくうへきこえあ
あいれまもれてあせのけね

あまさきもこれをつさてはまかれ
しられぬもしうちはのきこえ
きこえみのさみてふらふも
あれさすてなつかぬなをみをいけり
なくはこそあゆみてことにのむ
こふはのしめとみやきまにゆりふ
さうはつれありゆくこととも
乃きたまりもれりくくたすに
ふはのわとみもへわたりし

春

ありきてまことそみをなこよの
春きのうへのわいもへる

山さとの人みそれもさきこえく
うちくみミのそおとこみえ
のかまてさきし出そ川ねかひい
うらたしよの雑ものことさまたくる
あれまやしいらのやきぬ女五よ
さらかうにまるかれつし
おたえのこきうふあかいかえ
いまうこまのいつまつする
よる絡のたくおもしきみ春さあ
のさけくこまの一しごのよくとのしあ
こよのなてふらいのミはきこ筋
こまいさつらり暮よさぬし ちう

おくそふもつはもつしきへあれ
しくれのまもとそたりうそう
ちいし涼乃れまけくそ絵やすて
いおつらを尋るかち近
山みそつ山やまのいろはくすれそこ
木ちの女つこいささこみちそう

夜

花ちらしも乃らいしるそふくさえ女
ころ人しらつはぬきやまらくさ
ほかいくやらのおれいあしくきをとき ーの
みそかこらまいのてまきは
秋わかやのそいういとまてうなこの乃
しきここまししらぬきうさくう

ませかきはつゆもうくさきすゝきかな
たくのゆきみたれなやめゆり
くさわらのみすゝしむすゝ虫の草
ちらさいくまもにかけいけくし
おくさいしえのまたはるみあめて
いまさいたくさしゆめにたつゆん
すたれとおりにいまわぬ夜の秋の
おとらの月もやかなかきわ
夜ふらきいかやみるいのかりて
わかるそらさえきたちさしいゝ
あおきれあとことはのりゆてきこ
吹つきのてなるかきてあけまこ

六月もらけりあのこすれやけれて
さの井の水もむすひてきゝける

秋

後
あきゝつゝたまくらの風乃
いくよのしらふかはさらわ
なかわ秋乃ふゆのしはうかたさむ
さきのいきいりまつやしわん
吹風しもきたゝやもいまかまるゝの
うきの木のわのもこゝろ
もみちそめるときいのやまかはいろ
枯いしたいさうそきいくし

[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]秋の[illegible]
[illegible]
秋乃[illegible]
まくら[illegible]
[illegible]

冬

[illegible]冬は[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]松[illegible]
[illegible]の雪

勅 五ものゝ下なりれハことやらぬて
さほといふ放生の御川に
うろくつのかもしきいのちもすくはせ給ふ
あまねく川わさとなさせ給ひしも
然れハあさきなきのちさかく
それ〳〵ふこのうへとい放生
たいねにそらわれみたれゆ
わかしゆきうつの紙なれ
急
あふうのまちかしあまくいよ
いよし一かけをまいらせす

こなしきも心のつきいまうたにちかひ
川をとゝ中そてみちとあれこし
近しさの所のにこへ神をいさ
なきるみちきのみちさまされ
こそさされちく〳〵ちく〳〵く
まこそうなとこみのかたれ
いなかわれとうまいとしと
後 一川くはぬくひ給ひて
こきハふれ君それし人のさと
いしまゝとさ川れかいまらみ女

いくしほまた染めしも□あかなくに
おりそへてかれしまゝの□
いろゝし人のこゝろはそめく
うつろはんふるきのゝきれ
松のしやさかりあきのこゝろ
こゝらのあへの露地をまち
これをこそやこゆるとしまつる
みもますへはさわへゆく
あさらいたまなにはの千世
まつまり

春

あらたまとしあらたまるはうれしく
ろときくみきりしまの□いるとし
さとかすみのいやかすみくものの
うつしたる春きとし
かすこともとゆくよもすみさく
たくたかかえしはなたいくい
山のまつのふきあまれのはな
ぬくへそなの秋の月
まつのかすみあまれし
いさやよこゝもまきのこころ

夜

うゐらかくかく我はものおもふあやめ草
よそめなきこゝろのあやなき
きゝてうき白きかけもなし
はなは此世にはなくまつこそ
さ月まつ花たちはなのかをかけて
むかしの人にこゝろくもとや
鳥すゝしゆふくれなきとなき
こゝろしのゝ月しらすきこ
みしか夜のすゝしき袖にあまて
なつふかくなりゆく川の

秋

ゆふくれはいつもあはれとおもへとも
いまは秋をあきまちかねてなきぬらん
はつかりのなけはふきこの
たのみそてにふくる
やまのはの月みるたひに
わかそてしくらし
よしの川
秋の
あの
はなのかを

冬

ゐくろつはきねはたかこみえとさえこえぬ
わかみつのやまとにさわきてしも
ろさえこくもらはむはまてにあまの
しのはゆくをいさまこそわ
あまうちあらしのふるしも夜は
ねさきさうち山よりも
さえぬる下ゆきのうへにかれはつる
しほかせきみのふかきこのもしほ
きさしはくらしはてらいはとふき　冬
あまのあるしもあまのあまや

戀

たまのをよたえなはたえねなからへは
わすれしのゆくすゑまてはかたけれは
ころまれくあさひのかけもさそ
にのみしとおもひまつ
ちはひとのいはさしともちかくさまゝ
いにしへのなれしゆきのすむ家
かちつれや山うちこえてやまく
いはぬをもしるやとそのかけて
おくやまのいはかきたよのあたえもかは

さほのまへぬ川きのあやをさ
白露もおくへのうへにさたさして
ゆん川まちきし川まて川　ニ三
あま乃川わたりきえ思へと
みなの川わたりなかねおもふや
紫しらやくもふるとおもひやくるかな
まろくさきもなかさくにこ
野を山したもとまとまされと
こ紋やえ紫のもとのへの
えりこわとゆきとこそあふへの
こまとて川いしわきくかん

はまちとわかことふあ風とをひくら
こたしきくをさわてれ
きみ吾を
あさるさみちよたまつれふして露さ
みやしくれまもしまうへくら
きみと
あきつて露しもこにゆくちまわてき
みとる我をさくのもとく
たれ乃と
ちかしたの月とみふ山ちたのえにみ
ときはなかれぬゆもる月さ

いものと
ゆふされはあたらふくへき所あらめ
ごくすれはえはいしあそれ
川ちのと
風さむくしからす山なく川ちあさゆ
かれぬれはあとよりまさりけり
川ちのと
うたゝねのゆめもおもへはしらへ
たゝちあさくもたえぬれは
かのえ

さくら花いつ散りまかふらんたれ
りの名をたにこも理くれゝ所のちる世
うみのと
おもふこゝろはまた[illegible]山のはかゝら
川まち[illegible]しる秋の山こえて
みねのと
よのなかはあまりてあきさいなみの
冬かへりまたいふ海のさしとて
みちのと
ふるさとの花はやしかみれかたき
そののちにのそくらしたまわ
ゆきの大くわ

まのあくをなまもりて河のほとり
こたゆくまことよそのとき雪
なを行ゆくて
こくにていふしゆくさきあえよ
ゆくさきますてわれこすまな
ちかひし
中にまかしらみえらくならふえに
と月へくもあらんすかに
ちり川を
いもとの河与録やいか川まそにきを
きくれのはゆへをまつてんむ

それにこ
なえさへの人数あつまりこの人の
まつとも多くいつこいのまし
それしさふらふ
みちのくみえてたにこゝてわかれし
たにしさへゆくへなし
ふし
わまおもふこはしかとはありやなしやと
心よくまうらのみちる
いぬ井
いまたいぬ井の河のほとりのたいはる

よし月へくもゐよりもまさりたる
きゝ
ニきけるまゝにハ秋のかせふきて
鳴くもしもこゝぬかなしあはれなる
うしとも
ふくかしゝへみあるこそいとかなしけれ
いとはこなたをかけまほしみえかくし

諸二将包候一覧

千不代[illegible]

あ095
10